

会議名称	20年度 第3回杉並区地域自立支援協議会
日時	平成21年3月17日(火) 14:00~16:00
場所	区役所西棟6階第6会議室
<p><出席者></p> <p>沖倉 智美委員、大越 扶貴委員、深谷 純一委員、宮木 雅敏委員 番場 眞理委員 小松 邦明委員、鈴木 美佳子委員、村瀬 史貢委員、 加藤 恵愛委員、川上 博子委員、春山 陽子委員、 佐藤 弘美委員、清水上 晶子委員、諸沢 洋子委員</p> <p><幹事></p> <p>保健福祉部障害者生活支援課長：末久 秀子 保健福祉部障害者施策課長：大森 房子 保健福祉部杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：神保 哲也</p> <p><事務局></p> <p>障害者施策課 阿部、山崎 障害者生活支援課 鈴木 幹夫、鈴木 久、岩崎、小串</p>	
<p>【配布資料】</p> <p>○資料1 20年度後期 相談支援部会報告 ○資料2 20年度 合同部会報告 ○資料3 第1期自立支援協議会のまとめ(案) ○資料3-2 20年度地域自立支援協議会の開催状況 ○資料4 杉並区障害者計画・第2期障害福祉計画 ○資料4-2 計画改定に向けての意見と計画に盛り込んだ内容 ○資料5 杉並区障害者グループホーム等設置・運営ガイドライン 作成委員会設置要綱</p>	
<p>【会議次第】</p> <p>1 開会挨拶(会長より)</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 専門部会の報告と検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援部会(資料1) ・ 地域移行促進部会 ・ 合同部会(資料2) <p>(2) 第1期自立支援協議会のまとめについて(資料3、3-2)</p> <p>3 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 杉並区障害者計画・第2期障害者福祉計画(平成21年度~平成25年度)について 	

て〈資料4、4-2〉

- グループホーム等ガイドライン作成委員会の立ち上げについて〈資料5〉
- 21年度予算について

4 その他

5 閉会挨拶（会長より）

会議の要旨

議題1 専門部会の報告と検討

(資料説明)

- ・ 相談支援部会〈資料1〉 [春山副部長]
- ・ 地域移行促進部会 [佐藤副部長]
- ・ 合同部会〈資料2〉 [大越地域移行促進部会会長]

(委員からの意見)

【相談支援部会の報告と来年度への取り組みについて】

～特別支援学校関係者より～

発達障害児への相談支援には子ども発達センターや区の教育委員会が中心に行っていくのが良いのではないかと。である。就学相談等には、つなぎの仕組みを作って区の教育委員会にももっと関わって欲しい。

- ・ 相談支援事業所の一覧を見たが、機能別なのか地域別なのか各事業所の特徴がわからない。軽度な障害のある人は、単独で行動することも可能であるので、区民にわかるような情報提示の必要がある。
- ・ 学齢期の障害児を抱えた家族への相談支援は、どれだけ早期に教育の分野につなげられるかが重要である。区の教育委員会、自立支援協議会、相談支援事業所、そして特別支援学校も関わって支援していきたい。また、学校には地域支援担当という形でコーディネータもいるので、そのような学校資源も使っていけば方策も考えられるのではないかと。
- ・ 相談支援の取り組みはそれぞれの機関が独自に行うだけでなく、連携していくことが今後の課題で重要である。

【合同部会の報告について】

～権利擁護関係者より～

- ・ 資料2（1）地域移行の課題 ①の中に、「後見人の区長申し立ての対象を拡大する支援が必要」との記載があるが、親族がいても申し立て人になれない事情がある方は、区長申し立てができる場合がある。

高齢者関係担当者（地域包括支援センター等）とは、区長申し立てについて色々と話をしてきたが、障害者の相談支援事業所とはほとんど話しができていなかった。情報の共有をしていく必要があると感じた。

～グループホーム関係者より～

- ・精神障害者へのサービスは、訪問看護や訪問介護だけでは足りない部分がある。その部分を補うために、**※ACT**の体制の話が出ている。今ACTを行うことは実際難しいが、今ある社会資源でどのように近い形を作っていくか、話し合いができるが良い。**※ACT** 本人がその場に出向いていなくても受けられる訪問型サービス（例：薬を届けてもらうなど）

～相談支援事業関係者より～

- ・精神障害者の退院促進では、ヘルパー、訪問看護関係者等がチームでケアをし、再入院しないで安定して暮らしている事例が増えてきたように思う。3ヶ月ほどで入院、退院を繰り返すケースの相談が増えている。
- ・重度身体障害者の地域移行の相談を進めてきたが、自分の意思をはっきり言えないケースが多いと感じる。意思を告げて成功した経験がないこと、選択肢が少ないことが原因かもしれない。本人の願いをきき、寄り添い、引き出していくのが相談支援事業所の役割だと思う。日常生活の中で自分の意思を出せる場面が多くあるとよい。

～通所施設関係者より～

- ・様々なグループホームを渡り歩いて行き場が無いというケースがある。今まで知的障害という枠で考えてきたが、精神障害の枠まで広げると、解決できる可能性もあるとわかった。そのためには相談支援事業所に情報を流して一緒に相談をしていく必要性を感じた。今後は障害種別によらず、様々な障害に対応した相談が必要になってくる。

～ヘルパー事業関係者より～

- ・精神障害者で地域移行をした方にヘルパーとして関わってきたが、誰がどのように支援できるか役割が見えずにいつも不安を抱えていた。相談支援事業所が機能することで、関係機関のコーディネートをしてくれるので、大変心強い。また、障害者本人にとっても、相談できる場所があるという大きな支えとなる。

委員からの発言をうけて各部会からの意見

～相談支援部会より～

- ・見学会を通して、特別支援学校のコーディネーターと関係ができたのでよかった。その役割がよくわかった。また、今後、子ども発達センターとの交流も実現していきたいと思った。
- ・地域の中で相談支援事業所ができることは相談員の体制などの弱さもあり限られている。各関係機関との連携がとても大切。相談支援事業所の応援団になって欲しい。

～地域移行促進部会より～

- ・地域移行に対する本人の不安を減少するには、各関係機関の横のつながりを明らかに

していく努力を一緒にしていかなければならない。

- ・地域移行促進部会では、(グループホームなど) 地域移行におけるハード面を中心に議論してきた。合同部会では、相談支援事業所が地域移行の中で、どのようにかわりを持つかというソフト面を中心に話しをした。今後は、訪問的な機能も付加させながら地域移行の中で相談支援事業所がどのような役割を果たしていくかを具体的な施策を考えていく必要がある。

議題2 第1期自立支援協議会のまとめについて

(資料説明)

第1期自立支援協議会のまとめについて〈資料3、3-2〉 [事務局 鈴木]

(委員からの意見)

～就労支援関係者より～

- ・杉並区雇用支援事業団が、就労支援の核になりたいと思っている。今後の課題は、
 - ①就労移行支援事業所といかに連携していくか
 - ②支援のスキルをいかに高めていけるか
 - ③精神障害者の就労をどう支援していくか

などがあげられる。特に精神障害者の短時間就労については、作業所とも連携していきたい。

また、特別支援学校や作業所からの目標就労人数を出すなど数値を設定し、その数値を基にどんな体制を整えていけばよいのかを考えていく必要があると思う。

- ・精神障害や重複障害の方が就職するためには、様々な機関の支援が欠かせない。障害者本人の中で問題となっている部分を把握し、その上でどのような社会資源を使ったらよいのかを、障害者雇用支援事業団はじめ、各関係機関と連携し支援していきたい。
- ・事例検討がいかに大切かを実感している。仕事ができないというよりも、生活のからみの中で仕事を辞めてしまう障害者が多い。相談支援機関との連携の必要性を感じる。

～相談支援事業関係者より～

- ・「連携が必要」というのはどの会議でも出る意見だが、実際はなかなか難しい。今後も具体的な取り組みを積み重ねていく必要がある。
- ・7か所の相談支援事業所が設置されることになるが、地域分担にするのか等、役割分担を明確にして、しっかり人材育成をしていかなければならない。
- ・区民に相談支援事業所をどうわかりやすく周知していくかが課題である。
- ・各相談支援事業所が障害別という枠を超えて支援していけるよう、しっかり人材育成をしていかなければならない。また、個別支援会議を分析し、各関係機関が連携を深めていくことも必要。第2期の自立支援協議会に期待している。

～通所施設関係者より～

- ・この自立支援協議会に出席することにより、それぞれの方の仕事内容が少しわかってきた。最近は関係機関が集まった個別支援会議が増えたのも自立支援協議会の流れであろう。自分達だけで解決できないようなケースが増えている。単体では煮詰まってしまう支援も、情報を流し、共有し、地域の中で各関係機関が連携すれば、よりよい解決策が見つかると思う。

～グループホーム関係者より～

- ・合同部会をしたことにより、相談支援事業所に求められる役割のひとつが明確になった。それを具体化し、実現していくのが課題である。精神障害者の方に関しては、就労の話題にあまり積極的になれない部分があったが、もっと意見交換をする必要があると感じた。

～ヘルパー事業関係者より～

- ・他のヘルパー事業所と事例検討を始めた。報告者の話をよく聞き、自分達の意見を発表するといういい経験ができた。担当者会議で、本人や家族を前で話しにくいことがある。どう伝えるか悩んでいる。ホームヘルプは、利用者と1対1の近い距離で接している分、難しい部分もある。利用者とのどのように折り合いをつけていくかが今後の課題である。

～特別支援学校関係者より～

- ・各生徒に支援計画を必ず作成しているが、加えて教育委員会等含めた支援会議を行って、はじめて支援の形が具体化する。今後も学校内の教育支援部が中核となり、地域と連携していきたい。
- ・自立支援協議会の成果について記載されているが、もう少し精査したほうがよい。
- ・自立支援協議会の機能が明確になっていたかは、反省すべき点だと思う。自立支援協議会の根幹は、ケア会議だと思っている。ケア会議の積み重ねで、色々なことがみえてくるもの。みえてきたものを課題として自立支援協議会にあげていくよう機能して欲しい。
- ・自立支援協議会に当事者の参加を増やして欲しい。
- ・雇用支援センターは、23年度までの国の制度だが、その後区としてどうしていくのかワークサポートに任せるだけでなく、方向性を出すべきである。

～権利擁護関係者より～

- ・社会福祉協議会で行っているあんしんサポート事業、地域福祉権利擁護事業、成年後見制度等、PRが不十分だった。各関係機関の中で何ができるのかを理解することが必要である。
- ・社会福祉協議会は、福祉と法律の橋渡しの役目もあり、制度や障害の狭間にいる方達と一緒にできることがあるかもしれない。ぜひ社会福祉協議会に投げかけてきて一緒

に進めて欲しい。

～相談支援部会長より～

- ・相談を受けていて、意向を基にして支援する難しさ、本人の気持ちを引き出す難しさ、大切さを感じる。自分達だけでは限界がある。専門家と連携を深めていきたい。
- ・相談支援員の力量アップが必要である。
- ・今後も必要な社会資源を求めていく必要がある。各関係機関とのネットワークを増やしていきたい。

～地域移行促進部会長より～

- ・自立支援協議会の中では、保健・医療関係者としての立場だったが、役目を果たしていけなかった。第2期は、知的障害者の健康管理など、医療・健康分野について丁寧に話し合っていければと思う。

～自立支援協議会会長より～

- ・自立支援協議会が何を目指していくかを明確にできなかったように思う。第2期は、協議会と専門部会がつながる仕組みを作っていって欲しい。
- ・自立支援協議会と専門部会がきちんとリンクできれば、協議会がもっと議論中心になり、活性化していくと思う。
- ・自立支援協議会や専門部会に出席し、杉並区の中でこの両者が手を結ぶとよりよい支援ができるだろう、ということがだんだんわかってきた。必ず結果はついてくるので、地道にすすめていって欲しい。

以上

【報告事項】

- 杉並区障害者計画・第2期障害者福祉計画（平成21年度～平成25年度）について〈資料4、4-2〉～事務局より～
- グループホーム等ガイドライン作成委員会の立ち上げについて〈資料5〉～事務局より～
- 21年度予算について～障害者生活支援課長より～